

第1章



板橋区ユニバーサルデザイン
推進計画 2025

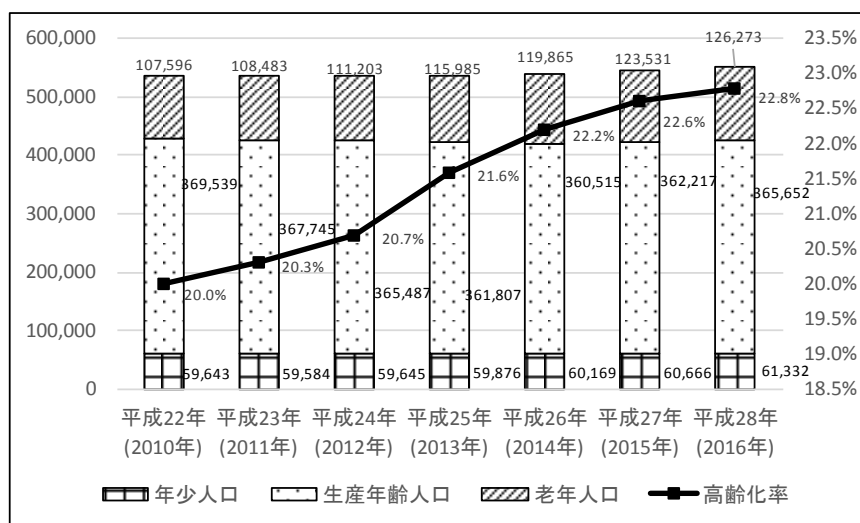
第1章 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025

1 計画の背景と目的

(1) 人口減少と超高齢化の進行

日本では、世界でも類を見ない形で、超高齢化が進行しており、加齢に伴う身体機能の低下、認知症など何らかの支えを必要とする人の割合が高まっています。その一方で、人口減少に伴い、手助けが必要な方を支える担い手が不足していくことが考えられます。板橋区でも高齢化は進み、平成28年4月1日現在では高齢化率が22.8%となっています。

【図表1】板橋区の人口と高齢化率

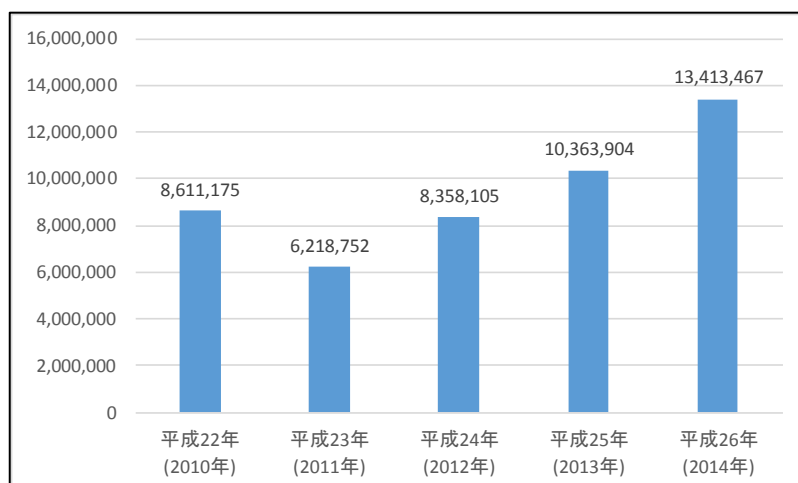


住民基本台帳（各年4月1日現在）を基に作成。外国人を含む。

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定

訪日外国人の数は近年増加傾向にあります。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定も契機となり、世界各地から来訪者の増加も見込まれ、国際化がさらに進展するといわれています。

【図表2】訪日外国人数



日本政府観光局資料より作成

(3) 国の動き

国では、平成 20 年 3 月には「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」が、平成 25 年 6 月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（以下「障害者差別解消法」）が制定され、あらゆる人の社会参加を促進する取り組みの推進が図られています。

(4) 策定の目的

社会・経済状況が成熟化し、さまざまな立場の人が社会参加できる環境も徐々に充実していく中で、物理的な豊かさだけでなく、文化・芸術、交流、スポーツ、観光などを通じて、心の豊かさを感じられる生活を求める人が増えています。年を重ねても、障がいがあっても、豊かさを求める気持ちに差はありません。

また、年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、すべての人が快適に暮らせるまちをつくり、さまざまな場面で社会参加ができる環境を整える必要性は高まっています。

このため、すべての人にとってくらしやすい地域社会の実現をめざすユニバーサルデザインへ考え方を発展させ、区政のさまざまな分野の取り組みに、ハード・ソフトの両面からこの考え方を取り入れて、人的介助の必要性をより少なくするとともに、だれもができるだけ、同じ場や状況のもとで、自由に行動できるまちをつくる必要があります。

さらに、区、区民、地域活動団体、事業者が、この考え方や各主体に期待される役割を共有し、全区的な取り組みとして展開していくことが求められます。

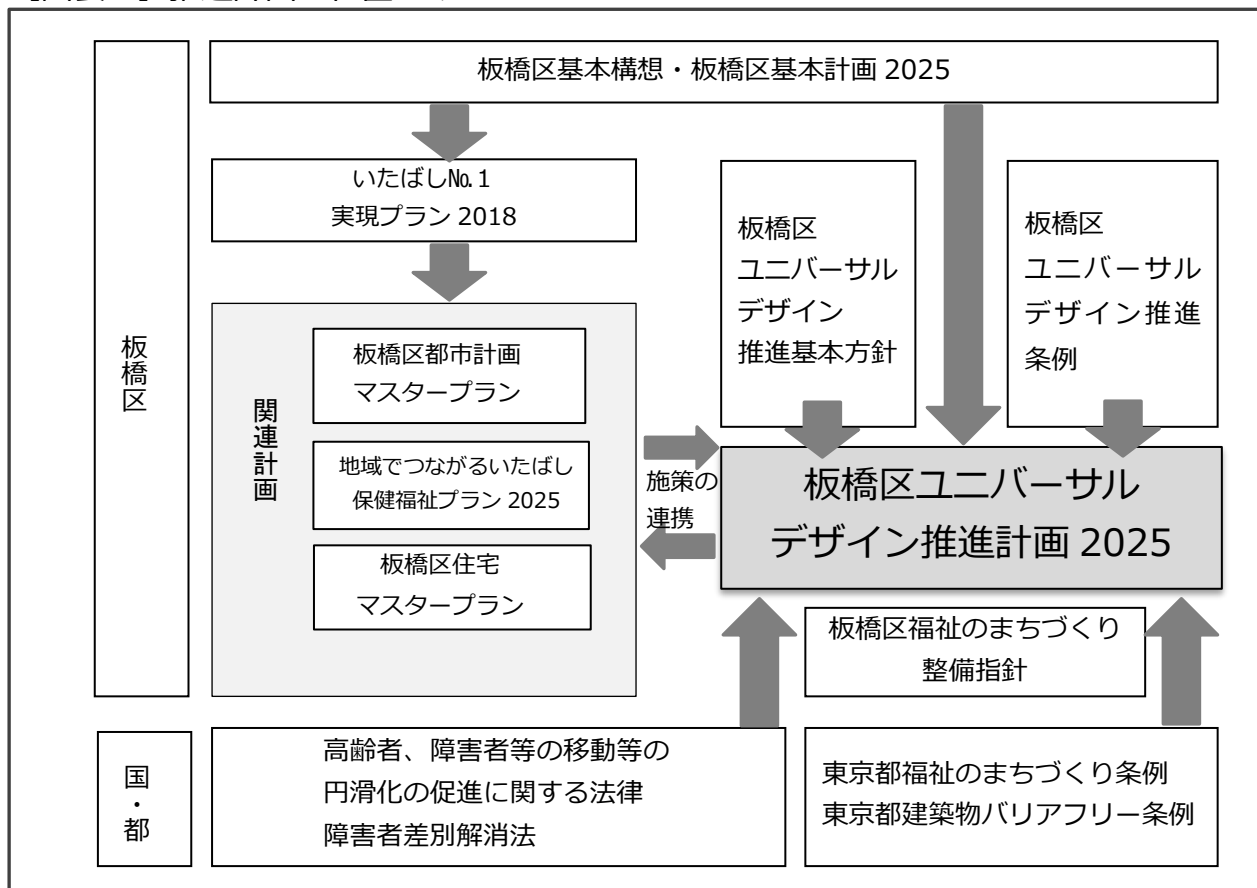
区では、このような前提に立って、「板橋区ユニバーサルデザイン推進基本方針」（以下「基本方針」）を策定し、将来像や取り組みの視点等を定めました。

今後は、基本方針で定めた将来像に向け、各種事業を計画的に推進するため、平成 29 年度から平成 37 年度までを計画期間とする「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025」（以下「推進計画」）を策定しました。

2 推進計画の位置づけ

推進計画は、板橋区ユニバーサルデザイン推進条例第8条を根拠とし、板橋区基本構想及び板橋区基本計画2025を踏まえ、各個別計画と連携を図りながら、ユニバーサルデザインに係る取り組みを体系的かつ総合的に推進していくための基本的な計画です。

【図表3】 推進計画の位置づけ

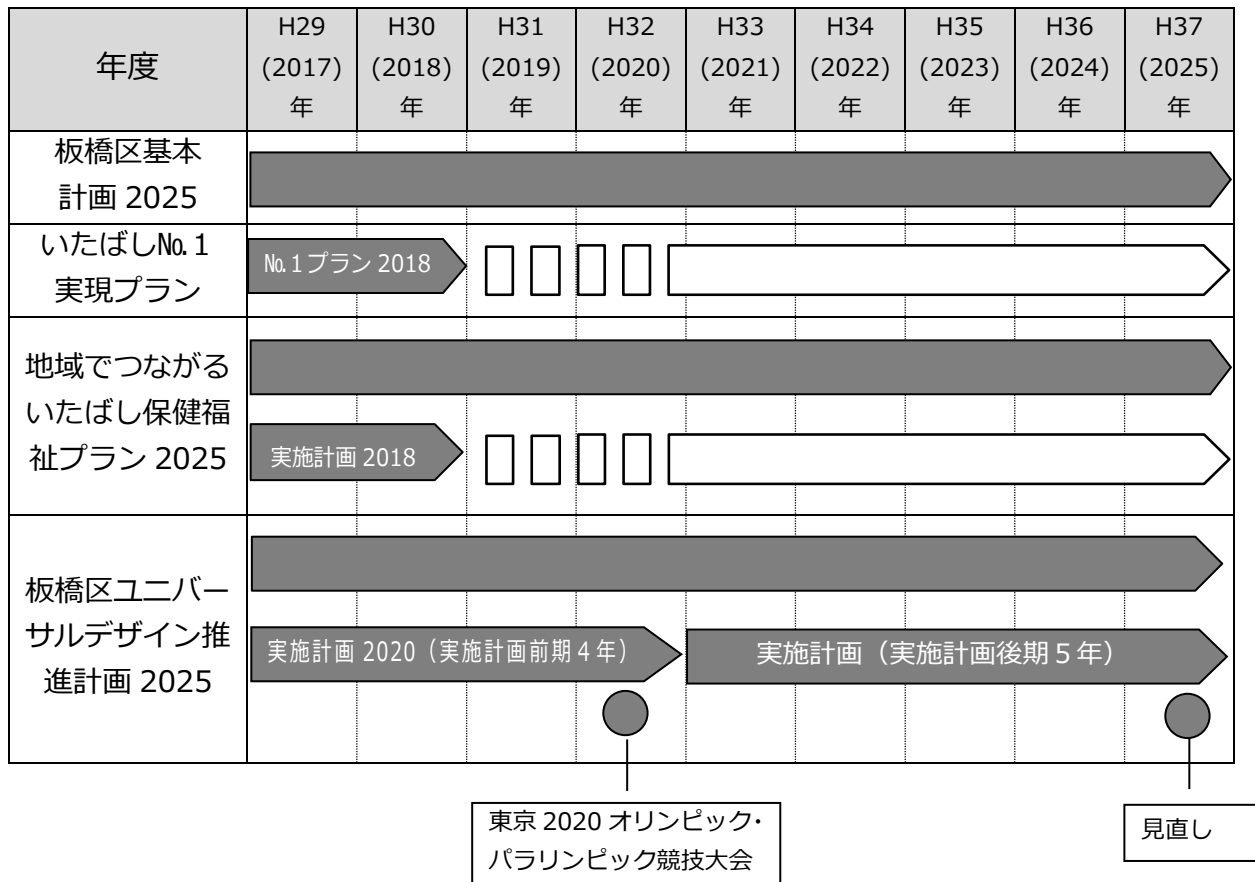


3 計画期間

推進計画の計画期間は、平成 29 年度から平成 37 年度までの9か年とし、具体的な事業計画は平成 32 年度までの前期とその後5年間の後期の2期に分割されます。

なお、社会情勢の変化や関連計画との整合性を踏まえ、必要に応じて見直しを行っていきます。

【図表4】計画期間



コラム | ユニバーサルスポーツ (ボッチャ)

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者又は同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツです。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

パラリンピックでは、重度の障がいがある方の種目となりますが、今では子どもから大人まで、どなたでも一緒に楽しめるスポーツです。

板橋区では、平成 25 年度から毎年ボッチャ交流会を実施し、体験の機会を設けています。



コラム | スマイルマーケット

「スマイルマーケット」は障がいのある方が働く施設で作ったお菓子や雑貨を売るお店です。以前の「スマイルマーケット」は、障がい者施設で作られた自主生産品のみを販売してきましたが、近年、障がい者施設で生産されるお菓子やパン等の品質が向上し、高い評価を得ることも多くなっています。

平成 28 年にリニューアルした区役所本庁舎の「スマイルマーケット」では、障がい者施設の自主生産品だけでなく、区民の公募で選ばれた人気の和洋菓子、お惣菜、パンなどの「板橋のいっぴん」、さらには区と交流ある自治体の特産品等も併せて販売することにしました。

これにより、通常の福祉施設等の販売所とは一線を画し、商品価値の高い品々が並び、来庁者がふと足を止めたくなる、新しいコミュニティショップとしています。

デザインは、JR 九州の豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」や、区役所本庁舎の改築に携わった工業デザイナーの水戸岡鋭治さんが手掛けています。

さらに、障がい者が「板橋のいっぴん」を販売する事業者と共に販売を行うことにより、障がい者にも接客や販売のノウハウが身についています。

このように、さまざまな取り組みの良い点を活かしながら「スマイルマーケット」は運営されており、今ではこれらの商品を楽しみにしているお客さんも数多くいらっしゃいます。



オープンセールの様子



「いっぴん」の一例



交流自治体の特産品の一例



障がい者施設の自主生産品の一例